/aplan

モデル設計の考え方

August 2022

免責事項

本資料は当社の一般的な製品の内容を概説することを目的としています。

参考情報であり、掲載されている情報は予告なしに変更されることがあります。

情報提供を目的としており、いかなる契約にも組み込む事はできません。

資料、コード、機能を提供することを約束するものではなく、意思決定を下す際に依存するものではありません。

Anaplan社は本資料の内容についていかなる保証も致しません。

また、本資料の内容に関するいかなる損害についても責任を負いかねます。

Anaplanの製品について説明されている機能または機能の開発、リリース、およびそのタイミングはAnaplan社独自の裁量に委ねられます。本資料とAnaplan社の正式発表に内容が異なる場合は正式発表の内容が優先されます。

基本となる設計思想 P.L.A.N.S

Anaplanは、パッケージシステムではなく「プラットフォーム」ソリューションであるため、機能要件を満たすための構築方法は何通りも存在します。ただし、以下の大原則を念頭において設計・構築を進めることが、パフォーマンス、拡張性、メンテナンス性、といった非機能要件をきちんと満たす優れたソリューションとなるかどうかを左右します。

P.L.A.N.S - 最適なモデル設計

Performance

HyperBlockの特徴を活かす構造/数式

Logical

リスト・モジュール・ラインアイテムの最適な構成 (DISCO)

A Auditable

可読性・メンテナンス性を考慮した数式

Necessary

不必要な演算や次元を保持しない。計算は1回のみ、それを複数箇所が参照する

PLANS - This Is How We Model

Anaplanの設計原則 D.I.S.C.O

D.I.S.C.O. - P.L.A.N.Sを実現するための最適なモジュール配置

D

Data

- ・ 外部データ(実績など)の取り込み用モジュール
- Data Hub

Inputs

- ユーザーの入力用モジュール
- Pageに配置される

S

System

- 時間管理、画面表示制御用フィルタ、DCAドライバなど制御系モジュール
- マスタマッピング

C

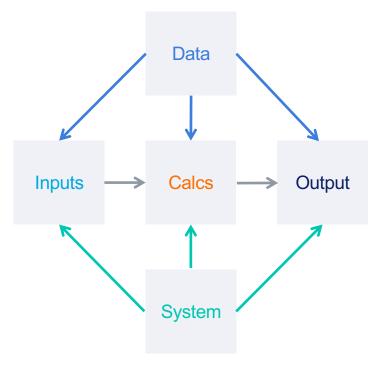
Calcs

• InputやDataの値を用いてロジックを組み込む計算用モジュール

0

Outputs

- InputやCalculation結果を表示する参照モジュール
- Pageに配置される



DataとSystemモジュールは、Input, Calculation, Outputモジュールに参照される

D.I.S.C.Oを守らないことによるデメリット

1つのモジュールになんでもかんでも詰め込んでしまうと、以下のようなデメリットが発生してしまいます。

- 同じ式を至る複数回書いてしまうということが発生し、冗長したモデルになる
- 不必要な容量消費が発生する
- どのモジュールになにが入っていたのか分からなくなり、生産性が下がる。
- 誤ってエンドユーザーに見えてはいけない計算結果が見えてしまう。
- モジュールをPageに展開した後に、ユーザーに見せなくていい項目を毎回Hide、Show。
- Model Map上でデータフローが一方向にならない。
- 不要になったLine Itemがどれだかわからなくなる。

D.I.S.C.Oを守ることによるメリット

モジュールをD.I.S.C.Oに従ってわけていくと以下のようなメリットがあります。

- 同じ式を複数回書いてしまうということが発生しなくなる
- 必要な分のみの容量消費となる
- 変更の影響範囲がわかりやすい
- 機能追加がしやすい
- レビューしやすい
- Page上でのHide、Showなどをしなくて良くなる
- アクセス権の設定が楽になる
- 容量削減時の分析がしやすい
- 不要なLine Itemが一目瞭然なので消せる (複数人開発だと特に効果発揮)

モデルマップ



- ・ モデル内のモジュールとデータの流れが確認出来ます。
- モデルマップ内の色分けはFunctional Areaの設定に依存します。(色は指定不可)
- モデルマップへのアクセス権はモデルビルダーの権限を 持ったユーザーのみです。
- モジュールの設定を変更した場合、自動的にモデルマップ も更新されます。
- → 開発中はモデルマップを時々確認し、データの流れが左から右に一方向に流れるキレイなデータフローになっているか確認しましょう。

DISCOの推奨命名規則

モジュールの名称にDISCOを含めることで、そのモジュールの用途を名称から理解できるようにする

Anaplan社命名規約書より抜粋

[DISCOの頭	文字]_[任意名称]
[DISCOの頭文字	字] D.I.S.C.Oのいずれか1桁
	*1桁ではなくIN_、OUT_などでも問題はないが、最初の1桁で識別可能なため本書では1桁とする
	*1つのモジュール内でIn、Calc、Outが混在する例については次ページで解説する
[任意名称]	そのモジュールの用途が分かる簡潔な任意名称
例	D_Sales_Volume Actual
	I_Sales Volume Forecast
	C SalesVolume Actual Allocation
	O Sales Variance Analysis
解説	DISCOの頭文字を名称に含めることで可読性が大きくあがる。モジュール名称の末尾に入れると、モ
	ジュール一覧画面で見切れる可能性があるので、プリフィックスとして定義することを推奨する。

UI要件によって、In、Calc、Outが混在するケースは必ず発生する。命名規則としては、Input > Output > Calculationの順で優先し、Page上に展開されているモジュールは必ずInもしくはOutとし、展開されていないモジュールのみがCalcとしてモデル内に存在するようにする。

Data	Input	System	Calc	Output	Prefix	Remarks
•					D_	
	•				I_	
		•			S_	
			•		c_	
				•	0_	
	•		•	•	I_	In, Calc, Out混在の場合はI
	•		•		I_	In, Calc混在の場合はI
	•			•	I_	In, Out混在の場合はI
			•	•	0_	Calc, Out混在の場合はO

一方で、中身と見合わない名称をつけてしまうと(Input項目があるのにC_xxxなど)、余計な混乱を生むため、それぞれの位置づけをきちんと理解しそのモジュールがどういった用途かを考えてネーミングすること。

DISCOのどれに該当するか? 基本の考え方

AppsのPageに展開するモジュール

- 見込値や補正値などのエンドユーザーの入力用モジュールは、Input
- 計算結果やP/Lレポートの表示は、Output
- ユーザーフィルターや管理者のパラメータ値(Current Period等)は、System
- 取り込んだ外部データ (実績データやマスタ情報)は、Data

AppsのPageに展開しないモジュール

- InputからOutputの間の計算を行うものは、Calculation
- 取り込んだ外部データ(実績データやマスタ情報)は、Data
- FilterやDCAの条件になるもの、時間や為替や配賦ドライバの設定は、System

DISCOのどれに該当するか? 基本の考え方

すべてのケースに当てはまるわけではないが、以下が基本的な位置づけとなる

	Data	Input	System	Calculation	Output
User Interaction	Low/Medium	High	Low	None	High
User Type	管理者 エンドユーザー (View only)	エンドユーザー	管理者 エンドユーザー (頻度低)	管理者	エンドユーザー
Summary	Off	On	Off	Off	On
Data flows in	外部システムデータ Data Hub	マニュアル入力 Data Module System Module	マニュアル入力 Data Module	Data Module Input Module System Module	Data Module Input Module System Module Calculation Module
Data flows out	Input Module Calculation Module Output Module System Module	Calculation Module Output Module	Data Module Input Module Calculation Module Output Module	Output Module	Export

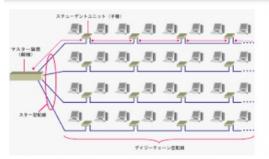
https://community.anaplan.com/t5/Best-Practices/Best-practices-for-module-design/ta-p/35993

Don't Daisy Chain - デイジーチェーンは止めましょう



デイジーチェーン





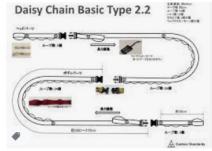
デイジーチェーン方式とスター型混合配線の特長と... landcomp.co.jp



デイジーチェーン | C & C . P . H . E Q ... pitagorabase.com · 在庫あり



アスクル】トーワ(TOWA) TOW... askul.co.jp・在庫あり



デイジーチェーン Basic Type 2.2 <Olive×Ol... outdoorstds.base.shop



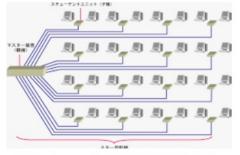
ヘリノックス デイジーチェaandfstore.com



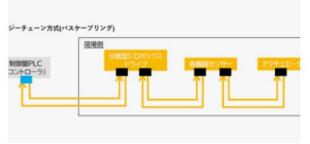
アスクル】トーワ(TOWA) TOWA ... askul.co.jp · 在庫あり



アルティメイトデイジーチェーン(... lostarrow.co.jp



デイジーチェーン方式とスター型混合配線の特... landcomp.co.jp



デイジーチェーン方式でのイーサネット通信 lappjapan.lappgroup.com



デイジーチェーン摂 ameblo.jp







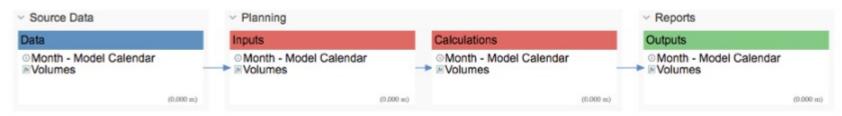




Don't Daisy Chain - デイジーチェーンは止めましょう

Daisy Chainの状態

DataモジュールのVolumeをInputモジュールが参照し、それをCalcが参照し、それをOutputが参照している状態



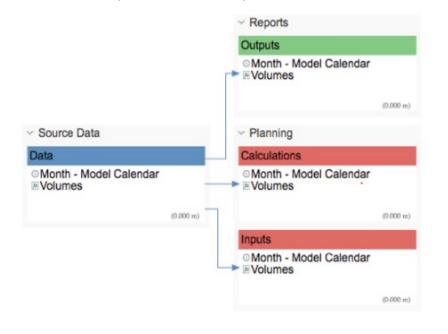


計算エンジンに不可がかかり、 パフォーマンスに悪影響

※もちろん、Dataに対して何かしらの計算を施した 結果をOutputに表示する、ということであればこの データフローになって全く問題ないです。ここでは全く 同じ値を数珠つなぎに参照してしまう状態のことを 問題としています。

Daisy Chainではない最適な状態

DataモジュールのVolumeをInput、Calc、Outputがそれぞれが参照している状態





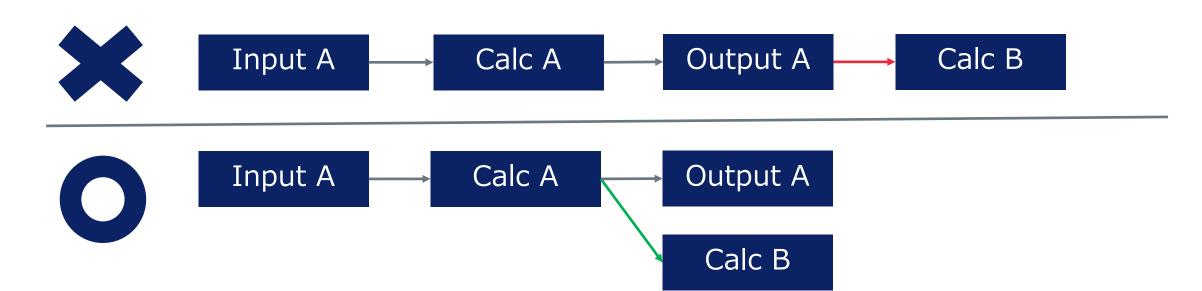
複数箇所が一箇所を参照し、最適な状態

Don't Daisy Chain - デイジーチェーンは止めましょう

Daisy Chainは、パフォーマンスのみならずさらに拡張性を低下させます。

例えば以下の例だと、機能Aの計算結果を機能Bの計算で参照したい場合、Calc BがOutput Aを参照するよりも、Calc BはCalc Aを参照する形にしてあげるほうが、影響範囲調査や仕様変更が容易になります。

例えば、後から「数値の表示は単位を切り替える機能をつけてほしい。」と言われた場合、OutputがCalcから参照されていると機能追加が難しくなります。



ほとんどのモデル構築において作成することになる代表的なシステムモジュールを紹介します。

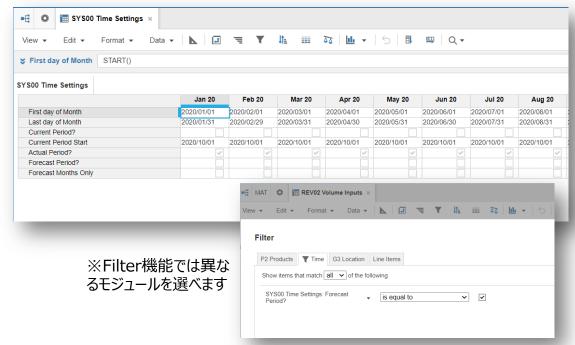
Time Filter

Time FilterはAnaplan構築においてまず最初に習得すべきテクニックの一つです。1モデル内に必ず一つTime Filterモジュールを作成するものと理解してください。InputやOutputモジュールのフィルター条件となります。

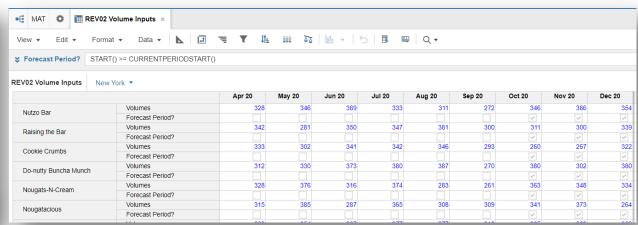
Systemモジュールとしてモデル内で一元管理し、様々なInput/Outputモジュールが使用します。Input/Outputモジュールそれぞれでフィルター条件を作ることはやめましょう。

OK

Systemモジュールで一元管理



NG Inputモジュールのなかでフィルター条件定義





ほとんどのモデル構築において作成することになる代表的なシステムモジュールを紹介します。

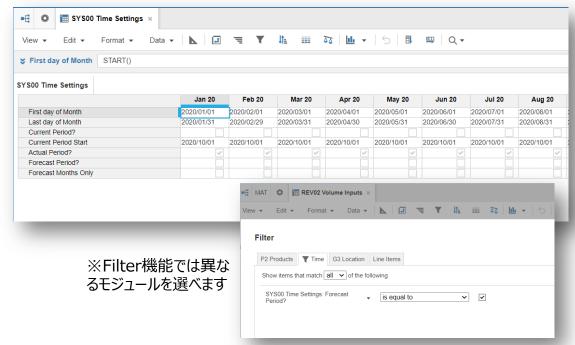
Time Filter

Time FilterはAnaplan構築においてまず最初に習得すべきテクニックの一つです。1モデル内に必ず一つTime Filterモジュールを作成するものと理解してください。InputやOutputモジュールのフィルター条件となります。

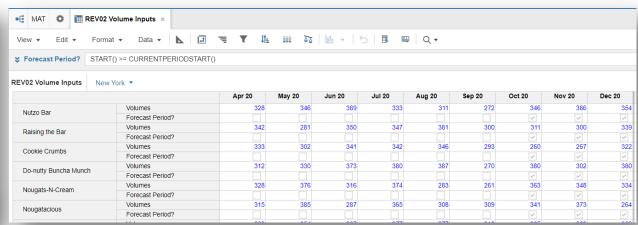
Systemモジュールとしてモデル内で一元管理し、様々なInput/Outputモジュールが使用します。Input/Outputモジュールそれぞれでフィルター条件を作ることはやめましょう。

OK

Systemモジュールで一元管理



NG Inputモジュールのなかでフィルター条件定義



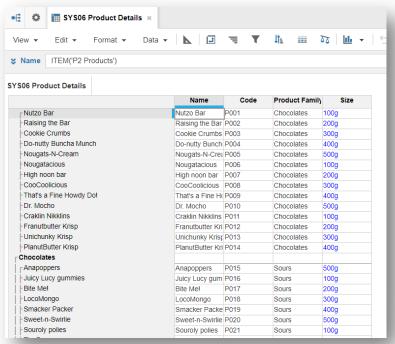


ほとんどのモデル構築において作成することになる代表的なシステムモジュールを紹介します。

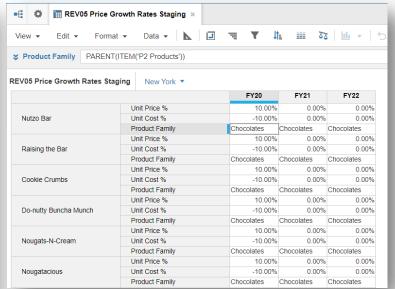
Detailsモジュール(リストの属性情報管理モジュール)

リストの属性情報や、CODE、NAMEを保持するモジュールです。Systemモジュールとしてモデル内で一元管理し、様々なInput/Outputモジュールが使用します。Input/Calc/OutputモジュールそれぞれでITEM情報を取得することはやめましょう。

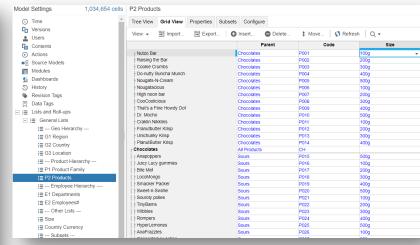
OKSystemモジュールで一元管理



NGCalcモジュールのなかで属性情報取得



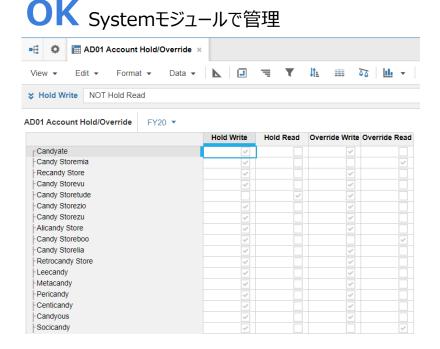
NG リストのプロパティとして属性情報保持

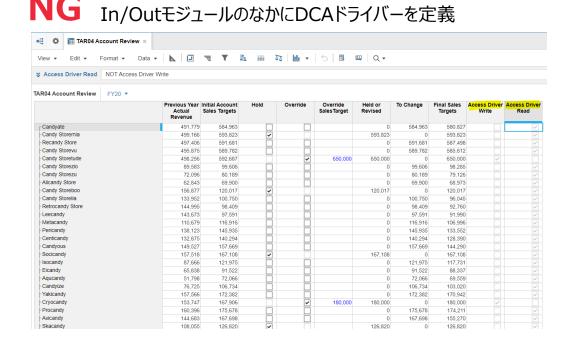


ほとんどのモデル構築において作成することになる代表的なシステムモジュールを紹介します。

DCA用モジュール(Dynamic Cell Access権限機能を利用する場合に使用)

動的に権限設定を施したい場合や、セル単位での権限設定が必要な場合、DCA機能を使用することになります。これもInput/Outputモジュール内に定義するのではなく、Systemモジュールとして管理しましょう。

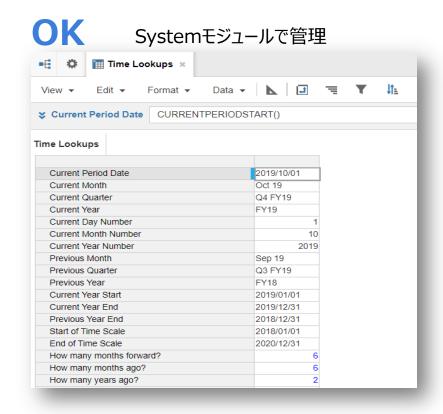


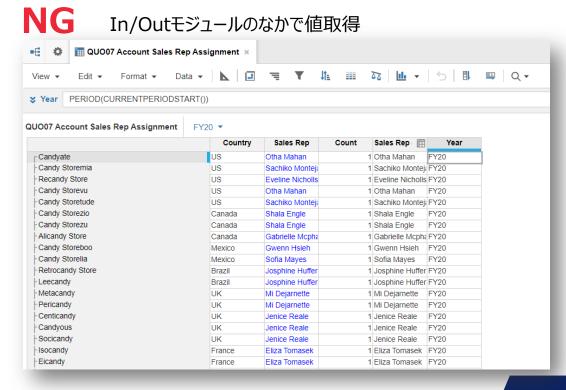


ほとんどのモデル構築において作成することになる代表的なシステムモジュールを紹介します。

パラメータ値管理モジュール(LookupやIFの条件値を保持するモジュール)

何もDimensionを持たないモジュールにLookupの引数を纏めて管理します。時間/日付系とそれ以外などでSystemモジュールを分けることは問題ありません。





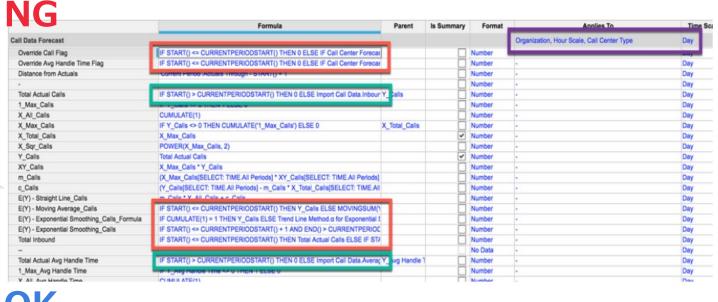
Calculate Once, Reference Many Times

ここまで紹介してきたSystemモジュールの役割は、制御系の値を一箇所で計算・管理し、In、Calc、Outモジュールそれぞれから参照されるためです。「Calculate Once, Reference Many Times」のルールを必ず守りましょう。同じFormulaを何度も書いていたら何かがおかしいと立ち止まって考えてください。

START() <= CURRENTPERIODSTART()が5回、START() > CURRENTPERIODSTART()が2回繰り返されている

Time以外にも次元が沢山あるため、必要以上に 無駄な計算が多く走っている状態

TimeのみをDimensionに持つSystemモジュールで計算





Call Data Forecast

Override Call Flag

II Days of Week.History Period? THEN 0 ELSE IF Call Center Forecast Override.

Override Avg Handle Time Flag

Distance from Actuals

THEN 0 ELSE IF Call Center Forecast Override.

THEN 0 ELSE IF Call Center Forecast Override.

START() + 1

Systemモジュールを参照する

Subsidiary Viewは必要以上に使わないこと

モジュール作成時に、そのモジュールに適用するリストを指定しますが、その後Line Itemごとに適用するリストを増やしたり減らしたりすることができます。モジュールに対して適用されているリストと、Line Itemのそれが異なる場合、Line Itemに対する適用リストを確認するための、「Subsidiary View」と呼ばれるビューが出現します。

Subsidiary Viewが使われていると、第三者がロジックを見た際に、理解することが非常に困難になるため、Calcモジュールに使うことは推奨されません。適用するリストが異なるのであれば、それはモジュールから分けましょう。

Account & Emloyees Module				GL Accounts, Employees	
Yearly Revenue			Number		
Yearly Costs			Number	-	
Yearly Margin			Number	-	
Country	Employees.Country List		Country	Employees	
Sub Region	Employees.Sub Region		Text	Employees	
Region	Employees.Region		Text	Employees	
Area	Employees.Area		Text	Employees	

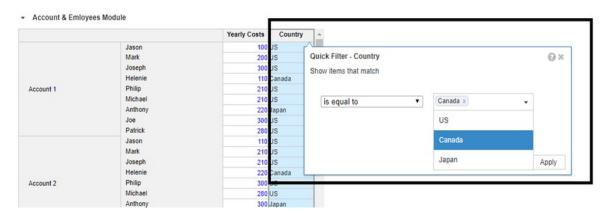
この小さいマークがSubsidiary Viewでカーソルを合わせてクリックするとLine Item単位のビューに遷移する

ハイフンは、モジュールに対して設定している Applies Toと同じリストを適用するという意味 の設定。

Subsidiary Viewの活用場面

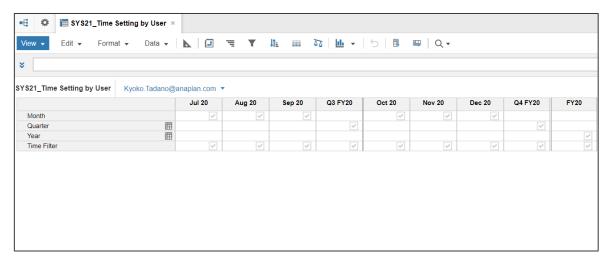
一方で、「Subsidiary View」を使用する方が適切な例もあります。そのため、絶対に使ってはならないというわけではなく、明確な意図のもと使うことは問題ないとご理解ください。(モジュールの切り分けが面倒だからという理由や、知らないうちにSubsidiaryが発生していたという状況がNG)

Output画面上での属性情報表示やフィルター、ソート条件にする場合



アウトプットモジュール内に表示するべき情報で、一部の軸にのみ依存する情報を表示するケースを想定。

例えば、上記はアカウントリストと従業員リストの2軸が適用されたモジュールです。 ユーザーの参考情報として同一モジュール上に従業員の国を表示する追加の列 を持ちたいとしたとき、その情報は従業員リストにのみ依存する情報なので、アカウ ントリストがあると無駄なセルが発生してしまうことになります。このような場合は、 当該ラインアイテムからアカウントリストを除き従業員リストのみが適用されたライン アイテムで国情報を取得します。 CalcやSysモジュールであっても、 複数モジュールに分けずに一纏めにした方が管理し易い場合



上記は上からそれぞれMonth/Quarter/YearとTime Scaleが異なるラインアイテム。

何が選択されているか同一モジュール内で分かる方が管理しやすいため Subsidiary Viewで定義している例。

Saved Viewの用途

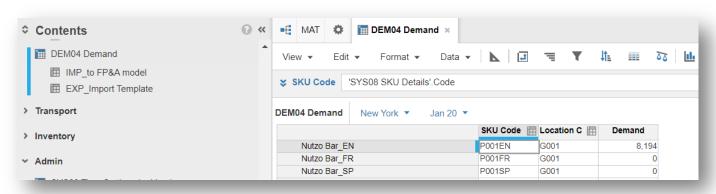
作成したモジュールに対してSaved Viewというビューを定義することができます。Saved Viewはとても重要な役割を果たします。用途をきちんと理解して、適切に使いましょう。

※クラシックダッシュボードに馴染みがある人は、UI用にSaved Viewを使ってしまいがちですが、<u>New UXでは、Saved View</u> <u>非推奨</u>です。注意しましょう。

1. Importのソースデータ: Anaplan内でImportをする場合、ソースをList、Module、Saved Viewの3種類から選べるが、必ずSaved Viewを作成し、それをソースとすること。

2. Exportのソースデータ: どのようなレイアウトやフィルター条件でExport定義が作成されたか、後から確認ができるように、必ずSaved Viewを作成し、それをソースとすること。

3. その他: モデルビルダーのデータバリデーション用など



データの絞込みについて

Anaplanではデータの絞り込み機能は3つに分けられます。Page Selector(標準)、フィルター機能(標準)、Line Itemを活用したフィルター(カスタム)です。それぞれの特徴を理解しましょう。

- 1、Page Selector (コンテキストセレクター)
 - リストの要素を指定すると、即時でSyncされる。階層リストの際に強みを発揮する。
 - 同じ軸であれば異なるモジュール間でSyncされる。Sync有無はカード単位で選択可能。
 - ユーザーごとの固有情報として扱われる。Resetしない限り、最後に選んだ状態が保たれる(NUXの場合)

2、標準のフィルター機能

- セルの値を条件にフィルターをかける
- 使いこなせるまで慣れが必要(多軸の場合特に)
- 複数条件の掛け合せ等、複雑なフィルタリングはできない

NUX Filters 原価要素名 ② Contains 於費交通費 Select a new column or row to add another filter

3、Line Itemを活用したフィルター

- フィルター条件を入力する箱をラインアイテムで定義し、その値をもとに該当データをBooleanで判定、Boolean値を標準のフィルター条件に設定する方法
- 次ページにて詳細説明





Classic

Classic

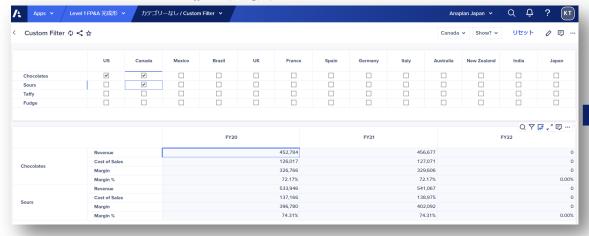
▼ TRN #SAP Actual Line Items





Line Itemを活用したフィルター (1/2)

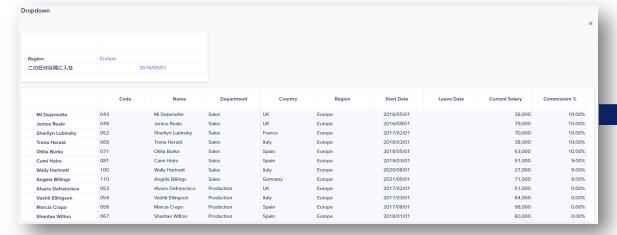
ユーザーにBoolean値で選択させるパターン



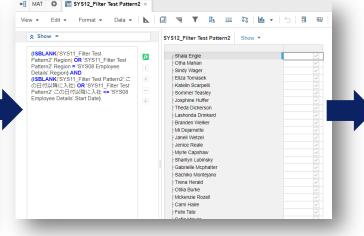
Page側でフィルター対象モジュールに条件をセット



ユーザーにドロップダウンから選択させるパターン



選択値を基にロジックでBoolean値を作成

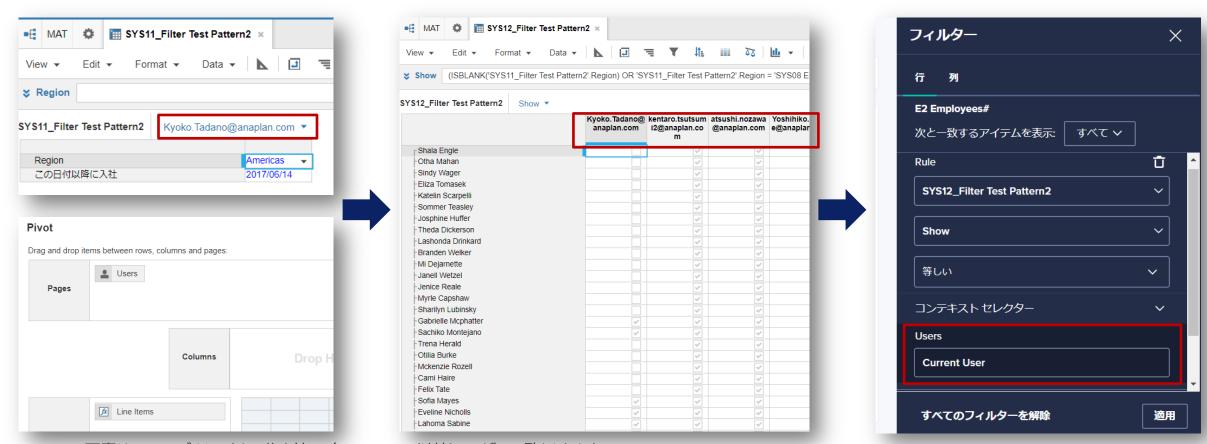


Page側でフィルター対象モジュールに条件をセット



Line Itemを活用したフィルター (2/2) Users軸有無の違い

Line Itemのフィルターは、ユーザー間で共通の条件になります。管理者が設定するようなフィルターであれば問題ありませんが、 ユーザー個々のフィルター条件になるべきであれば、Users軸を追加します。



Usersの要素は、そのモデルにアクセス権を持つ(No Access以外)ユーザー一覧となります。 全てのUserが表示されるのはモデルビルダーのみで、エンドユーザーは自分のユーザーIDのみが見えます。※他のユーザーの条件を変えてしまうということは発生しない。



フィルターのかけ方

フィルターをかける場合、その条件となるLine ItemのFormatはBoolean型にしましょう。AnaplanではBoolean型が1番パフォーマンス面で優れています。容量の消化も1セル1byteです。(Number型は8byte)

例えば、フィルターの条件に、直接「Value >100」などの条件を設定するのではなく、Boolean FormatのLine Itemで Value >100の判定を済ませておいて、そこのTRUE,FALSEをFilterの条件します。そうすることで、UI表示のパフォーマンスが向上します。

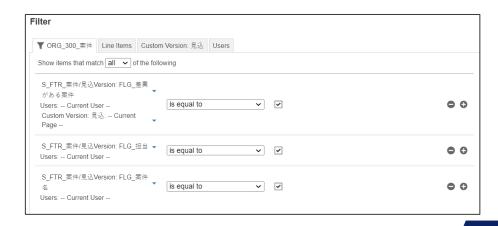
また複数条件が伴う場合、複数のBoolean型ラインアイテムを直接フィルタに設定するのではなく、その複数条件を判定する最終のLine Itemを一つ追加し、その一つのみをフィルター条件に設定するようにします。

○K 複数の条件判定結果を最後に一つ別のラインアイテムでまとめて それをフィルター条件として設定する。





NG 各フィルター条件判定結果をフィルター機能上で直接複数設定してしまう



OutputがUsers依存の場合、容量に注意

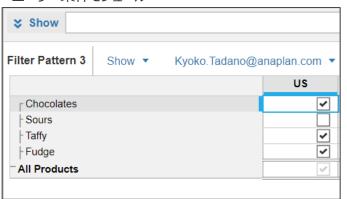
フィルターだけではなく、アウトプットの値自体を、Users固有の条件によって変えたい、という要件の場合は注意が必要です。 例えば、ユーザーが選択した製品のみの売上合計値を表示したい、などです。

この場合フィルターするだけではなく、値自体をUser単位で保持する必要があるので、アウトプットモジュール側にもUsers軸をつける必要があります。少ないユーザー数であれば問題ありませんが、数百~になるとその分セルが確保されるので容量が多く消費されます。

特に危険なのが、このことを理解せずに構築を進めると、開発環境は通常ユーザー数が少ないため問題が検知できず、本番モデルを立ててユーザー登録をした瞬間に容量が爆発するという自体が発生します。

Users軸を付ける場合は、本番相当の件数を容量試算の対象に含めることを忘れないようにしましょう。

ユーザー条件モジュール



アウトプットモジュール: ユーザー条件を参照して、対象であれば値取得、対象外はゼロを取得

⇔ Revenue	e IF 'Filter Pattern 3'.Show THEN 'REV03 Margin Calculation'.Revenue ELSE 0						
REP01 Countr	y Margin Report - Users	US ▼	Kyoko.Tadar	no@anaplan.co	m ▼ Rev	enue 🔻	
	,		FY20	FY21	FY22	All Periods	
┌ Chocolates			301,216	242,614	0	543,830	
Sours			0	0	0	C	
Taffy			283,144	214,883	0	498,028	
- Fudge			162,766	120,719	0	283,485	
All Products			747,127	578,216	0	1,325,343	

※ユーザー数が多くアウトプットをUsers付きで保持することは容量の観点で不可能となる場合、 AnaplanのExcel Addinを利用する、BIツールへ機能棲み分けをするなどAnaplan UI以外で対応する方法が現状考えられるワークアラウンドです。



Applies Toの順番

モジュールのApplies Toの順番はモジュール間で揃えるようにしましょう。揃っていないとパフォーマンスに悪影響を与えます。

- モジュール作成時のGeneral Listの順番でApplies Toは作られます。General Listの順番を変更しても、 Applies Toは作成時の順番のままです。
- Applies Toの三点リーダーから「ダイアログを開いてOK」をすることで、各モジュールのApplies Toの順番は、 General Listの順番も揃います。



モデルビルダーのための10か条



https://community.anaplan.com/t5/Preface/tkb-p/Chapter0Planual

黒字は頭の片隅に留めておいていただきたいガイドラインです。 青字は本資料内で具体的な開発テクニックとして触れます。

- L. 力技の作り込みは必ずしもやるべきとは限らない (Just because you CAN doesn't mean you SHOULD)
- 2. 計算は1度、参照を複数回 (Calculate once, reference many time)
- 3. 常にシンプルな設計を心掛ける (Simple > Complex)
- 4. 必要な箇所にだけ計算させる (Only calculate when you need to)
- 5. スパース性は必ずしも悪いとは限らない (Sparsity is not your enemy)
- 5. (モデルサイズが)大きくパフォーマンスに優れたモデルは、小さく遅いモデルより良い (Big and fast > small and slow)
- 7. Boolean型 = 軽い テキスト型 = 重い (Booleans = great. Text = bad)
- 8. テキスト結合処理 = さらに重い (Text joins = worse)
- 9. イレギュラーケースによってモデルを複雑化させることを避けること (Don't let exceptions overcomplicate the model)
- 10. SUMとLOOKUPの併用は必ず避けること (Sums and lookups are good, but never together)

Thank you!